

第六十八日目

師 範: 条約改正は1894年に、イギリスとの交渉で治外法権の撤廃に成功しました。

外国人が日本で犯した犯罪は日本の裁判所で裁くということになりました。これで、不平等条約の一つの課題が解決しました。陸奥宗光外務大臣が一番手ごわいイギリスと交渉を始めました。その努力が実りました。しかももう一つの不平等なことは、輸入品に自主的に税をかけることができなかつたことです。



関税収入がないということと、野放図に外国商品が国内に流通することになり、国産の商品が売れなくなってしまうことです。

日本の生産者や産業を守れないということです。

関税自主権を失っていたといえます。

この点での交渉が始まり、小村寿太郎外務大臣はアメリカと通商航海条約を結ぶことに成功しました。関税自主権の完全な回復がなされました。

1911年 関税自主権を完全回復する。条約改正が終わる。

この年を覚えましょう。

コン太: このようにまとめました。



「日本の 低(ひく)い位置を直す 条約改正」

「低(ひく)い位置 税権ないのを 回復し」

「低(ひく)い位置 関税自主権 改正し」

「ひ」は1, 「く」は9, 「い」は1, 「いち」は1です。

師 範: 不平等な立場を平等にしたいという強い願いが条約改正交渉の底にありました。

この気持ちを伝えていますね。

ペン太: これは長いですが



「関税を求めてアメリカへ行く。いい結果をえた小村」

「いく」は19, 「いい」は11です。

師 範: たしかに長いですね。今までで最長でしょう。

素直ではありますが。

さて、この1911年は中国の人にとっても、忘れられない年でした。

孫文らとともに中国の人々は清の支配に反抗して革命をおこしました。

辛亥革命といひます。清は275年も続きましたが、ほろぼされました。
翌年に中華民国が建国され、アジア初の共和国が成立したのです。

ペン太：ではひとつ

「孫文なっとく いい革命だ」

「とく」は19,「いい」は11です。